

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人片柳学園		平成25年3月1日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																		
工業	情報科学専門課程	情報処理科				平成23年文部科学大臣告示 第67号	-																		
学科の目的	ソフトウェア開発からシステム運用まで、ITの分野で活躍するために必要な知識を身につけ、ビジネスで即戦力となる人材を育成。企業が求めるITスキル・ヒューマンスキル・ビジネススキルの3本を柱とし、3つのスキルをバランスよく兼ね備えた「自ら行動できる社会人」を育てる。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2年	昼間	1740時間	1275時間		1770時間		単位時間																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
240人	377人	19人	6人	6人	12人																				
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																				
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級 条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																				
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。また、精神的な悩み等は、学生相談室のカウンセラーと連携して対応している。			課外活動	■課外活動の種類 IT関連の展示会、海外研修旅行、スポーツ実習、インターシップ、卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動：有																				
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等 (平成29年度卒業生) キヤノン株式会社 株式会社パソナテック ドコモデータコム株式会社 東芝テックソリューションサービス株式会社 株式会社PFU ■就職指導内容 業界・業種知識、筆記試験、履歴書添削、模擬面接、個別進路相談の教育と指導および不合格者の心理的フォロー。 ■卒業者数 150 人 ■就職希望者数 124 人 ■就職者数 119 人 ■就職率 96.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 82.0 % ■その他 ・進学者数：15人 ・ITスペシャリスト科(四年制)3年次編入 ・東京工科大学コンピュータサイエンス学部・メディア学部3年次編入 ・東京工科大学コンピュータサイエンス学部・メディア学部2年次編入 ・和光大学経営学部、他校進学など (平成29年度卒業者に関する 平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>212人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・MOS世界学生大会2018 Word部門1名入賞 ・彩の国さいたまICTコンテスト2017 日刊工業新聞賞受賞 ・第1回専門学校HTML5作品アワード 入賞					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート	③	20人	18人	基本情報技術者	③	212人	26人	応用情報技術者	③	22人	5人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
ITパスポート	③	20人	18人																						
基本情報技術者	③	212人	26人																						
応用情報技術者	③	22人	5人																						

中途退学の現状	<p>■中途退学者 18名 ■中退率 5% (休学8名含まず)</p> <p>平成29年4月1日時点において、在学者343名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者317名(平成30年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 (例) 学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 病気療養、出席不足、学科不一致、進路変更(大学進学)、勉学意欲の低下</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も行っている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： (有)・無</p> <p>・片柳学園入学免除制度・片柳学園創立70周年記念奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： (有)・無 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： (有)・無</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	<p>http://www.neec.ac.jp/department/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	①
上島 賢治	株式会社イー・ウエスト 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	③
伊藤 琢晃	株式会社ユグドア 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
兒島 正広	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
大島 信行	日本工学院八王子専門学校 科長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
齋藤 達之	日本工学院八王子専門学校 主任	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	
柳川 和彦	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 課長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回（3月・9月）

(開催日時（実績）)

第1回 平成29年9月15日 15:00～17:00

第2回 平成30年3月09日 13:00～15:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

H30年度からスタートするIoT関連の新科目である「IoTものづくり実習」等を開講するにあたり、委員より専門学校の教育ではハードウェア知識中心の学習ではなく、「IoTを活用していかにビジネスに結びつけていくか」、「電子デバイス会社とパートナーを結ぶのかベスト」などの目標の位置づけや企業連携についてご意見を頂いた。それを踏まえて、「IoTものづくり実習」ではセンサー回路等の仕組みを学ぶ授業内容ではなく、センサーをソフトウェアを介して活用する方法として授業内容を改善し工夫した。また、教育版レゴマインドストーム正規代理店の㈱アフレル様および自社ブランド家電製品の開発・販売を行なう㈱Cerevo様と教育連携の協定を締結した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

トランスアクト(株)とは、Word、Excelなどマイクロソフト製品の操作方法を学ばせる一方で、MOS検定試験の実施時期や夏期宿題の意見交換を行い、検定試験合格に対する評価方法を定めた。またMOS検定試験の合格結果を踏まえ、授業内容・方法等について検証し、学生指導上での問題点、改善案を話し合った。

ニュークリエイト(株)とは、実習で使用するLinuxのディストリビューションとIT技術者として学ぶべきLinuxのコマンドや操作法、主要ツールなど、実習内容や実習環境などについて話し合い、到達目標の設定を行った。

(株)アフレルとは、レゴマインドストームを活用したプログラミング教育と授業の実施方法について話し合い、授業内容や到達目標の設定を行った。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
Office実習	MOS検定試験を目標とし、Microsoft Wordの使い方、文字修飾、ページレイアウトの設定、表・図の挿入、書式の設定等を学ぶ。また	トランスアクト株式会社
プレゼンテーション	情報伝達能力の向上を目的に効果的な情報発信方法や発表手法を学ぶ。またMicrosoft PowerPointを使用して、プレゼンテーションソフトの使い方を習得、資料の作成方法や効果的な活用方法を学ぶ	トランスアクト株式会社
Linux実習	仮想コンピュータの作成・設定、LinuxOSのインストールから始まり、Linuxコマンドによる基本操作、ファイルやディレクトリの作成削除、ユーザの作成やアクセス権の変更などLinuxを扱う上で必要な技術を習得する。	ニュークリエイト株式会社
IoTもの作り実習	レゴマインドストームを使用したプログラミングの基礎学習をおこなう。簡易プログラミングツールを利用し、レゴマインドストームで作成した車を動かしながらプログラムの流れや考え方を学び、論理的思考力の向上を目指す。	株式会社アフレル

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「セキュリティ教育における効果的アプローチと教育体系について」

(連携企業等：講師 アクセンチュア株式会社 平山 敏弘様)

期間：2017年8月29日（火）

対象：ITカレッジ教員

日本ネットワークセキュリティ協会 幹事（教育部会 部会長）平山 敏弘様 講演

「セキュリティ教育における効果的アプローチと教育体系について」、今後のセキュリティ教育の実習を含めた進め方について紹介。平成30年度に向けて方針を検討し改善点を確認した。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「CerevoによるIoT、AI活用事例」

(連携企業等：講師 株式会社Cerevo 甲斐 祐樹様)

期間：2018年3月23日 (金)

対象：ITカレッジ教員

今後、IoTやAIが発展し産業や社会をどのように変えるのか、Cerevo社で取り組んでいるIoTやAIの開発および活用事例の紹介。また専門学校としてAI技術をカリキュラムに取り入れるにあたり、専門学校が果たすべき教育内容や指導方法のスキルについて認識して検討することを確認した。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「柔軟な働き方改革であるテレワークの現状と今後の教育現場におけるテレワーク活用」

(連携企業等：講師 日本テレワーク協会 客員研究員 (工学博士) 鈴木 達郎様)

期間：2018年9月26日 (水)

対象：ITカレッジ教員

今日、働き方改革の一環としてテレワークを推進する企業が出てきており、一方、ICT技術の発展によりテレワーク導入環境の整備も整いつつある。教育現場においても、テレワーク環境を活用した教育スタイルの多様性について認識し検討することを計画している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生指導上の初期対応と基礎知識向上セミナー」

(連携企業等：講師 東京工科大学 中川和美教授)

期間：2018年9月26日 (水)

対象：ITカレッジ教員

近年、精神疾患を抱えた入学生の増加とともに、担任が、統合失調症やうつ病などの精神疾患をクラスに抱えたことは、もはや珍しいことではありません。まずは担任が、精神疾患の基礎知識を得て正しい理解をし、初期対応できるよう指導力向上に結び付けることを計画している。

期間：2018年9月26日 (水)

対象：ITカレッジ教員

研修テーマは、「AI教育や学生指導力向上に向けた教育手法」をテーマの講演および検討会を実施予定

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33) 個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教員の研修体制を整えて欲しいという意見があり、自発的な能力開発及び向上を目的として今年度新設した「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を活用していく。中途退学の理由として経済的理由が挙げられているが、ファイナンシャルプランナーの活用をしてはどうかとの意見から、自己啓発支援制度を利用した職員の資格取得を促し、学生へのサポート体制の充実を図る。また、学生へのSNSのマナー等に関しても指導を徹底していく。

教員の労働環境改善、メンタルケアなどサポート等の充実のため「ヘルスサポートセンター」等の学生および教員のサポート体制の確立を引き続き検討する。なお、昨年度から導入した教員の変形労働時間制度を活用し労働環境の更なる改善をはかる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社NVC(ヌーベルバーグカンパニー) 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 企画推進室 室長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ()) 平成30年9月15日

URL : <http://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成29年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(情報科学専門課程 情報処理科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザイン1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1・前	30	2	○			○				
○			キャリアデザイン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般常識、SPI科目の対策を重点的に行います。また面接対策などをしっかり学びます。	1・後	30	2	○			○				
○			ビジネススキル1	就職活動に備え、社会人として身につけるべき「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し方」などのマナーを習得します。	1・前	30	2	○			○				
○			簿記会計	基礎的な商業簿記の知識を学び、検定試験の合格を目指します。	1・後	30	2	○			○				
○			プレゼンテーション	パソコンを使い、多くの人の前で発表する技術を身につけます。	1・後	30	1			○	○			○	○
		○	スポーツ実習1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	1・後	30	1			○		○			
○			Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	1・前	60	2			○	○			○	○
○			ITストラテジ	システム戦略や経営戦略など、ストラテジ分野について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			ITマネジメント	プロジェクトマネジメントやサービスマネジメントなど、マネジメント分野について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			IoTもの作り実習	ハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・前	30	1			○	○			○	○
○			IoT実習1	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・後	30	1			○	○			○	○
○			コンピュータ・テクノロジー1	コンピュータの基礎理論などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
○			コンピュータ・テクノロジー2	システム開発技術などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
○			アルゴリズムとデータ構造	プログラムを作成する上で重要なアルゴリズムを情報処理試験対策も含めて学習します。	1・前	30	2	○			○			○	
○			プログラミング基礎	プログラムの基本構造を学び、実際にプログラムを作成します。	1・前	60	2			○	○			○	
○			Web開発基礎	ブラウザから利用するWebシステムの基礎となる技術を学びます。	1・後	60	2			○	○			○	
○			データベース基礎	リレーショナル型データベースの構造や管理機能などデータベースの基礎を学びます。	1・後	60	2			○	○			○	
○			情報セキュリティ	企業の業務システムやコンピュータシステムを安全に利用するために求められる情報セキュリティについて学習します。	1・後	30	2	○			○			○	
○			情報系資格対策講座1	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・前	30	2	○			○			○	
○			情報系資格対策講座2		1・後	60	4	○			○			○	

○	プログラミング 実習1	(システム開発コース)「プログラミング基礎」を ベースに、より実践的なプログラミング技術を学び ます。	1・ 後	60	2				○	○		○	○		
○	モバイルプログ ラミング1	(モバイルアプリ開発コース)「プログラミング基 礎」をベースに、より実践的なプログラミング技術 を学びます。	1・ 後	60	2				○	○		○	○		
○	プログラム実習	(システム運用コース)「プログラミング基礎」を ベースに、より実践的なプログラミング技術を学び ます。	1・ 後	60	2				○	○		○	○		
○	システム設計1	(システム開発コース)システム開発過程における 要求定義から内部設計までに必要とされる要求分析 技法、各種設計技法の基礎を学びます。	1・ 後	30	2	○				○		○	○		
○	モバイル設計1	(モバイルアプリ開発コース)システム開発過程に おける要求定義から内部設計までに必要とされる要 求分析技法、各種設計技法の基礎を学びます。	1・ 後	30	2	○				○		○	○		
○	ネットワーク	(システム運用コース)LANやWANなどを中心と した基礎的なネットワーク技術を学習します。	1・ 後	30	2	○				○		○			
○	基本情報対策講 座1	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を 行います。	1・ 後	45	3	○				○		○			
○	資格対策講座1	各種検定資格の対策を行います。	1・ 前	30	2	○				○		○	○		
○	資格対策講座2		1・ 後	30	2	○				○		○	○		
○	特別講座1	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを 行います。	1・ 前	15	1	○				○	○		○		
○	特別講座2		1・ 後	15	1	○				○			○		
○	インターンシッ プ1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来 に関連のある職業体験を行います。	1・ 後	15	0					○		○	○		
○	インターンシッ プ2		1・ 後	150	5					○		○	○		
○	校外研修1	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品 や情報に触れます。	1・ 前	30	1					○		○	○		
○	校外研修2		1・ 後	30	1					○		○	○		
○	キャリアデザイ ン3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削や集 団面接、個人面接の受け方など就職活動に必要なス キルを学びます。	2・ 前	60	4	○				○		○			
○	キャリアデザイ ン4	就職活動に向けた就職支援を行います。また内定先 企業へのお礼状の書き方など学びます。	2・ 後	60	4	○				○		○			
○	ビジネススキル 2	仕事をする際に必要となる電話の対応、ビジネス メール、手紙のマナーなど、社会人に役立つビジネ スマナーを身につけます。	2・ 前	30	2	○				○			○		
○	スポーツ実習2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	2・ 後	30	1					○	○		○		
○	外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	2・ 前	30	2	○				○			○		
○	情報系資格対策講座 3	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定 試験対策を行います。	2・ 前	60	4	○				○			○	○	
○	情報系資格対策 講座4		2・ 後	60	4	○				○			○	○	
○	IoT実習2	各種センサーを利用したプログラムの企画から開 発、テストまでを行います。	2・ 前	30	1					○	○		○	○	
○	Webアプリケー ション開発	「Web開発基礎」で学習したことをベースにWeb システムの開発を行います。	2・ 前	60	2					○	○		○	○	

○		Webセキュリティ実習	Webシステムの脆弱性について学習し、その対策を考え実装します。	2・後	30	1			○	○		○	○	
○		卒業制作	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、作品の制作や自由研究を行います。	2・後	180	6			○	○		○	○	
○		データベース応用	リレーショナル型データベースの構築から操作までを実習を通じて学びます。	2・前	30	1			○	○		○	○	
○		クラウドコンピューティング	実際の業務でも使用されるクラウドサービスなど、最先端のITサービスを体験します。	2・後	30	2	○			○			○	
○		Linux実習	LinuxOSのインストールや環境設定を行い、Linuxコマンドなどを使った基本操作を学びます。	2・前	60	2			○	○		○	○	○
	○	プログラミング実習2	(システム開発コース) 様々なシステムに対応したプログラミングを学習します。	2・前	60	2			○	○		○	○	
	○	プログラミング実習3		2・後	60	2			○	○		○	○	
	○	モバイルプログラミング2	(モバイルアプリ開発コース) 様々なシステムに対応したプログラミングを学習します。	2・前	60	2			○	○		○	○	
	○	モバイルプログラミング3		2・後	60	2			○	○		○	○	
	○	サーバ構築実習1	(システム運用コース) インターネットや企業内で利用される様々なサーバを構築します。	2・前	60	2			○	○		○	○	
	○	サーバ構築実習2		2・後	60	2			○	○		○	○	
	○	システム設計2	(システム開発コース) システムやアプリケーション開発過程における各種設計技法を実践的に学びます。	2・前	30	2	○			○		○	○	
	○	モバイル設計2	(モバイルアプリ開発コース) システムやアプリケーション開発過程における各種設計技法を実践的に学びます。	2・前	30	2	○			○		○	○	
	○	運用管理	(システム運用コース) 標準的なコンピュータの運用管理法を学びます。	2・前	30	2	○			○		○	○	
	○	基本情報対策講座2	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を行います。	2・前	45	3	○			○		○		
	○	基本情報対策講座3		2・後	45	3	○			○		○		
	○	資格対策講座3	各種検定資格の対策を行います。	2・前	30	2	○			○		○	○	
	○	資格対策講座4		2・後	30	2	○			○		○	○	
	○	特別講座3	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	2・前	15	1	○			○		○		
	○	特別講座4		2・後	15	1	○			○		○		
	○	インターンシップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2・後	150	5			○		○	○		
	○	校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・前	30	1			○		○	○		
	○	校外研修4		2・後	30	1			○		○	○		
合計			67 科目	3045 単位時間(144 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1500時間(76単位)取得および選択科目を240時間(10単位)以上取得し、合計1740時間(86単位)以上取得すること	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。